

独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター

初期臨床研修プログラム

1 研修プログラムの名称

独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター・国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院・東近江市永源寺診療所合同臨床研修プログラム

基幹型臨床研修病院：独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター

協力型臨床研修病院：国立大学法人 滋賀医科大学医学部附属病院、
公益財団法人青樹会滋賀八幡病院
近江八幡市立総合医療センター

臨床研修協力施設：東近江市永源寺診療所、弓削メディカルクリニック、
東近江市湖東診療所、東近江市あいとう診療所

2 研修目標

今日わが国では、高齢化社会と少子化の中で疾病構造の変化や国民のニーズの多様化・高度化などにより、医療に大きな変革が求められている。そこで、このような医療環境の変化に対応できる医師を養成すべく、医師と患者のコミュニケーションと全人的な幅広い診療という原点に立ち戻って研修を見直す必要がある。すなわち、プライマリ・ケアをはじめとして、少子高齢化社会の多様な医療ニーズにも対応できる幅広い診療能力を身につけるとともに、患者と全人的な関係が構築できる医師としての人格を涵養する研修体制を確立することにある。このような観点より、以下のよう研修目標を定める。

- (1) 患者を全人的に理解し、患者や家族と良好な人間関係を確定することができる。
- (2) 医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調できる。
- (3) 患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。
- (4) 患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、および感染予防の方策を身につけ、危機管理に参画する。
- (5) 患者や家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施することができる。
- (6) チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な症例呈示と意見交換を行うことができる。
- (7) 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価することができる。
- (8) 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献する。

3 研修計画

(1) 教育課程と研修方法

2年間の研修期間において、前述の研修目標を達成するために、以下のようなプログラムを設定する。

- ① 2年間の研修中は平日の毎朝開かれる総合内科カンファレンスに原則出席し、内科と救急部門の重要な疾患について繰り返し研修する。
- ② 一般外来については、研修1年目の内科系ローテート時に週1回総合内科外来研修（合計30日以上）行うこととする。
- ③ 全ての診療科は約6週間研修を基本とする。
- ④ 救急部門及び麻酔科はブロック12週とし、先に麻酔科4週、残り8週を救急部門の研修とする。
- ⑤ 研修1年目の最初は内科系5科のいずれかから研修開始し、年度末までに残りの内科と産婦人科・小児科・整形外科/外科系をローテートすることとする。
- ⑥ 研修2年目は外科系/整形外科、地域医療、救急部門及び麻酔科を必須とする。
- ⑦ 自由選択は6週間の計3回とあるが、まとめて研修することも可能とする。

(注) 内科：総合内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科

外科：外科/整形外科

地域医療（東近江市永源寺診療所、弓削メディカルクリニック、東近江市湖東診療所、東近江市あいとう診療所）

精神科（滋賀医科大学医学部附属病院、公益財団法人青樹会滋賀八幡病院）

選択科目：内科・小児科・放射線科・外科・呼吸器外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・眼科・麻酔科・皮膚科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・精神科(院外)・地域医療(院外)より選択

(2) 研修期間割

1年目

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
総内・内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	循環器科内科	消化器内科	神経内科	外科／整形外科	産婦人科	小児科
1. 5ヶ月ずつ							

2年目

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
自由選択1	地域医療	整形外科／外科系	自由選択2	麻酔科	救急	自由選択3	精神科
1. 5ヶ月ずつ				1ヶ月	2ヶ月	1. 5ヶ月	

(3) 研修医の配置

1年目

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A		内科・外科・産婦・小児(診療科が重ならないように1.5ヶ月ずつローテート)										
B												
C												
D												

オリエンテーション: 2日以内

2年目

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	選択1	地域	整形外科	選択2	麻酔科4W+救急	選択3	精神					
B	麻酔科4W+救急	地域	整形外科	選択1	選択2	精神	選択3					
C	外科	選択1	麻酔科4W+救急	地域	精神	選択2	選択3					
D	選択1	外科	精神	選択2	選択3	地域	麻酔科4W+救急					

4 本研修プログラムの特色

研修指定病院としての実績は浅いが、滋賀医科大学の第2教育病院として、年間を通じ5年生臨床実習を2週間ずつ、滋賀医科大学初期研修Aプログラムの学外実習を6週間受け入れており、指導医全員が臨床教育に熟知している。当センターでの研修する医師は総合診療を目指すだけでなく、各診療科の専門医を希望する場合も含めて、医療の基礎となる医療面接、身体診察、典型例の画像診断、基本的手技が偏ることなく一定レベル以上に到達する必要があると考えている。したがって、問診や診察を繰り返しトレーニングするため、1年目は内科系診療科を重点に研修し、2年目は外科系や麻酔科・救急を回るプログラムとなっている。また、将来どの診療科へ進む予定であってもプライマリ・ケアと救急は途切れることなく経験する必要があると考え、当センター内初期研修中は毎朝カンファレンスに出席し、内科系すべての入院患者のディスカッションに加わることで、救急症例を含めた common disease を繰り返し学習できるシステムを特徴としている。さらに定期的なカンファレンス時間内での症例報告を通じて、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を涵養し、地方会レベルでの発表につなげている。